

学部卒は 408 名 (52.5%)，修士以上修了は 369 名 (47.5%) であった。図 4-2 に示すように，回答者の最終学歴を大学カテゴリー別にみると「国公立 A」では修士以上修了が約 70% であり，学部卒との比は約 2 : 1 である。この比は，「私立」ではほぼ逆転している。

(iii) 卒業後年数

卒業後 15 年前後の回答者は 573 名 (73.7%)，学部卒業後 5 年の回答者は 174 名 (22.4%)，無回答は 30 名 (3.9%) であった。ここで，「卒業後 15 年前後」は，その後の学歴に関係なく学士号取得後 14，15 および 16 年を表している。以下ではしばしばこれを「卒業後 15 年」と略記する。

4. 2 現在の業種

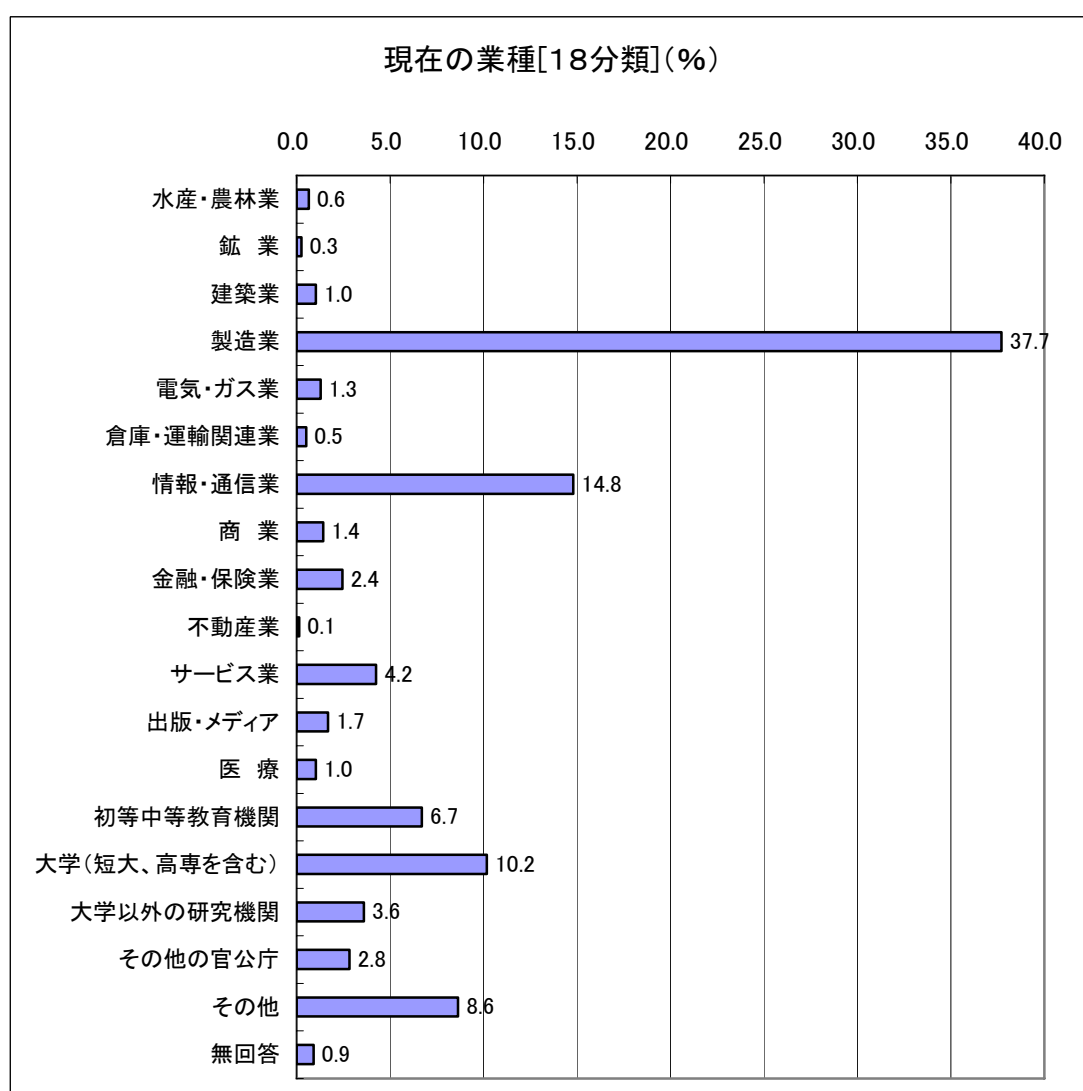


図 4-3 現在の業種 (18 分類)

回答者の「現在の業種」(18 分類) の回答結果を図 4-3 に示す。「大学(短大、高専を含む)」，「大学以外の研究機関」，「その他官公庁」，「初等中等教育機関」があわせて 23.3% であるのに対して，物理・応用物理関連学科の出身者全体の約 70% にあたる圧倒的な大部

分が「製造業」、「情報・通信業」を中心とする産業界に進出していることがわかる。

自由記述欄によれば「その他」に含まれる業種の内容は、特許事務所、寺院、市役所、進学予備校、博物館、パート、派遣業、家庭教師など多岐にわたっている。

全体の傾向を掴むために、18分類の業種回答を6分類の業種にまとめて図4-4に示す。「大学」と「大学以外の研究機関」を合わせて「高等教育・研究機関」とし、「サービス業」、「金融・保険業」、「出版・メディア」、「商業」、「電気・ガス業」、「医療」、「建築業」、「水産・農林業」、「倉庫・運輸関連」、「鉱業」、「不動産業」等の極めて多様な諸職業に「その他の（大学と初等中等教育機関を除く）官公庁」を合わせて「サービス・金融等」とし、また、「その他」と「無回答」を合わせて「その他・無回答」とした。

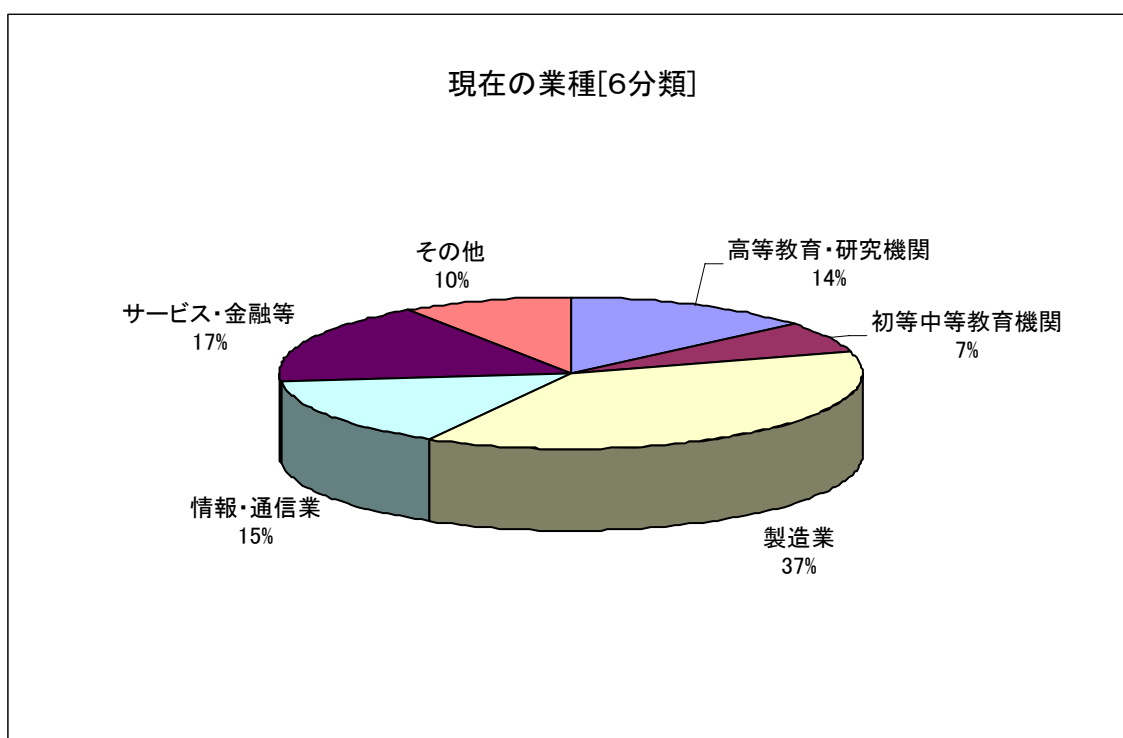


図4-4 現在の業種（6分類）

これを見ると、「大学」と「大学以外の研究機関」を合わせた「高等教育・研究機関」は13.8%、「初等・中等教育機関」は6.7%であった。これに対して民間の業種は、最も多い「製造業」が37.7%で、「情報・通信業」が14.8%であった。また、多様な諸職業を合わせた「サービス・金融等」が17.5%であった。

以下ではさらに、「高等教育・研究機関」と「初等中等教育機関」を合わせて「教育研究分野」と呼び、「製造業」、「情報・通信」、「サービス・金融等」をあわせて「産業界」と呼ぶことにする。

大学カテゴリー間の比較

図4-5のように大学のカテゴリーに分類してみると、この業種分布の傾向は、大筋で

は大学のカテゴリーにあまり強く依存していないことがわかる。特に、最も大きな割合を占める「製造業」と「情報・通信業」の割合は三つの大学カテゴリーの間で大差がない。重点化国立大学を代表する「国公立 A」では「高等教育・研究機関」（大学・高専およびそれ以外の研究機関を含む）が20%強と多いが、「製造業」も40%を超えている。

「国公立 A」で「初等・中等教育機関」が5%以下なのは特徴的である。研究と教育に関しては卒業生の割合が「国公立 A」, 「同 B」, 「私立」の順に並ぶ傾向はあるが, 「サービス・金融等」と「その他」に関しては逆の傾向がある。

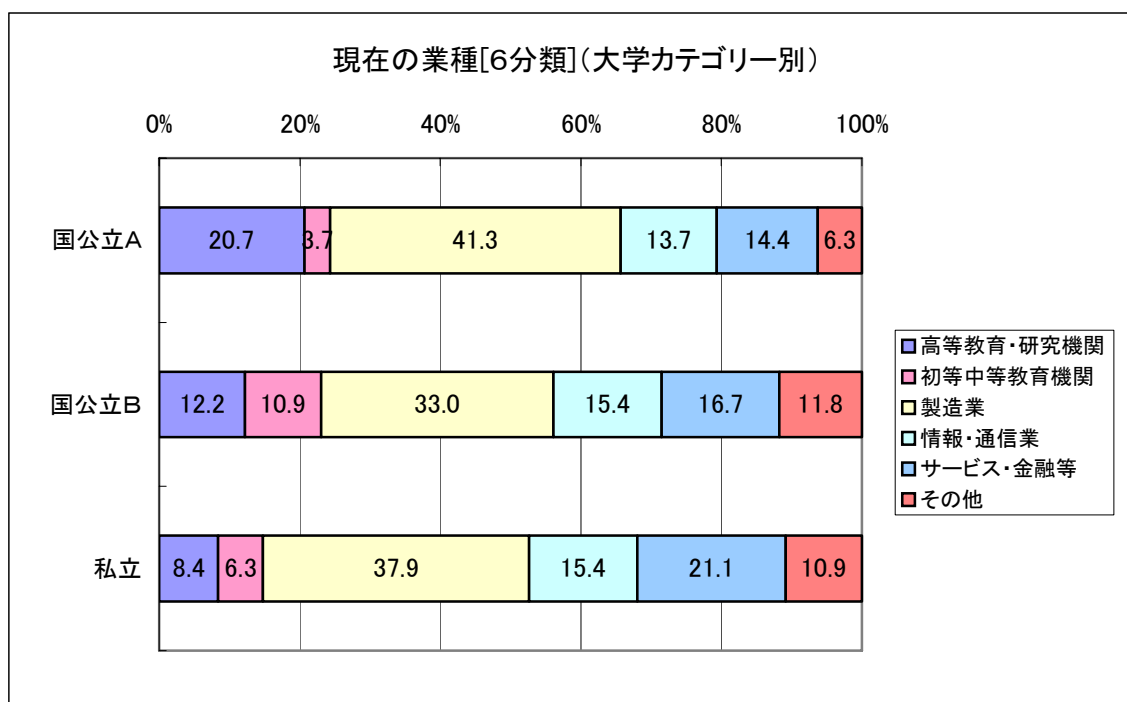


図4-5 現在の業種（大学カテゴリー別）

最終学歴と現在の業種の相関

現在の業種と最終学歴の相関を図4-6に示す。製造業に従事している比率は「学部卒」でも「修士以上」でも最大で、ほとんど同じ（37~8%程度）である。しかし、「高等教育・研究機関」従事者の割合は「修士以上」の学歴を持つ卒業生が27.6%で「学部卒」のそれに比べて際立って多い。その一方、「学部卒」は「サービス・金融等」, 「情報・通信業」, 「初等中等教育機関」, 「その他」に多く従事している。この傾向は大学カテゴリー等にほとんど依らない。

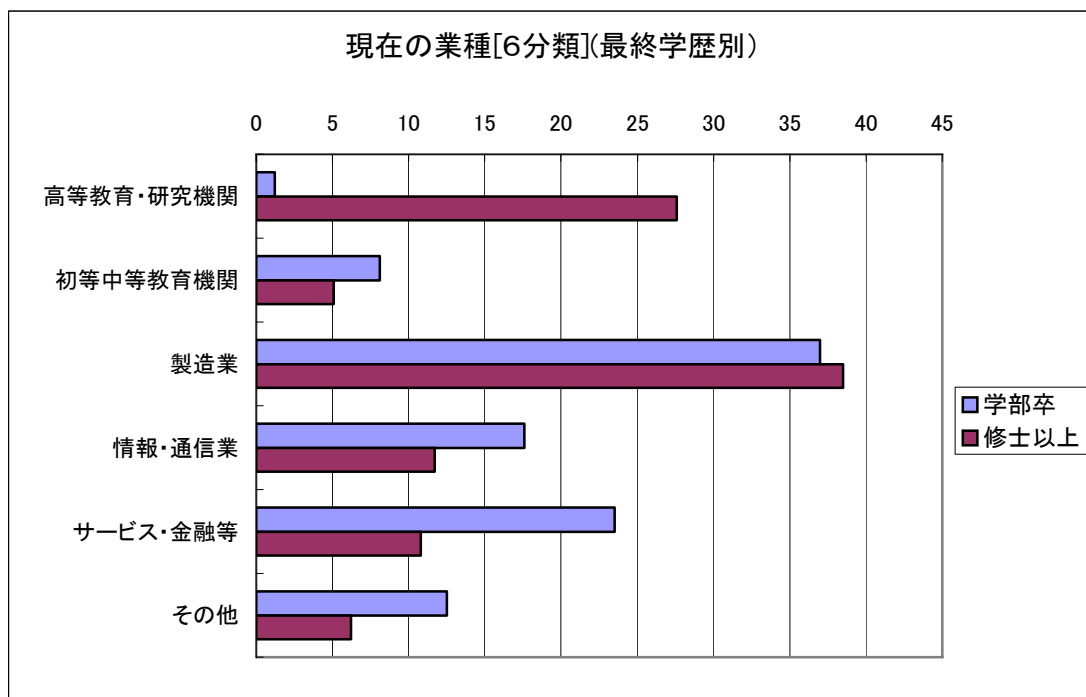


図 4-6 現在の業種（最終学歴別）

グラフは割愛するが、例えば、「国公立 A」でも「修士以上」を修了して「高等教育・研究機関」に従事する卒業生の割合は 28.6%、「初等中等教育機関」の割合は 2.2%であり、「製造業」の割合は 40.0%である。すなわち、この「高等教育・研究機関」への従事者の割合が最も大きな「国公立 A」を含め、すべての最終学歴や大学カテゴリーに共通して、約 70%の修了生は「高等教育・研究機関」以外の職業についている。

理学系と工学系の比較

理学部の物理学科・応物学科の卒業生を「理学系」の卒業生とし、工学部・理工学部の物理学科・応物学科の卒業生を工学部系（「工学系」）の卒業生として区別して扱い、調査結果を比較して現在の業種の分布（6 分類）を図 4-7 に示す。「工学系」は「理学系」と比較して「製造業」により集中し、「初等中等教育機関」には少ないが、全体的には「工学系」と「理学系」の間で業種分布にあまり顕著な差はない。

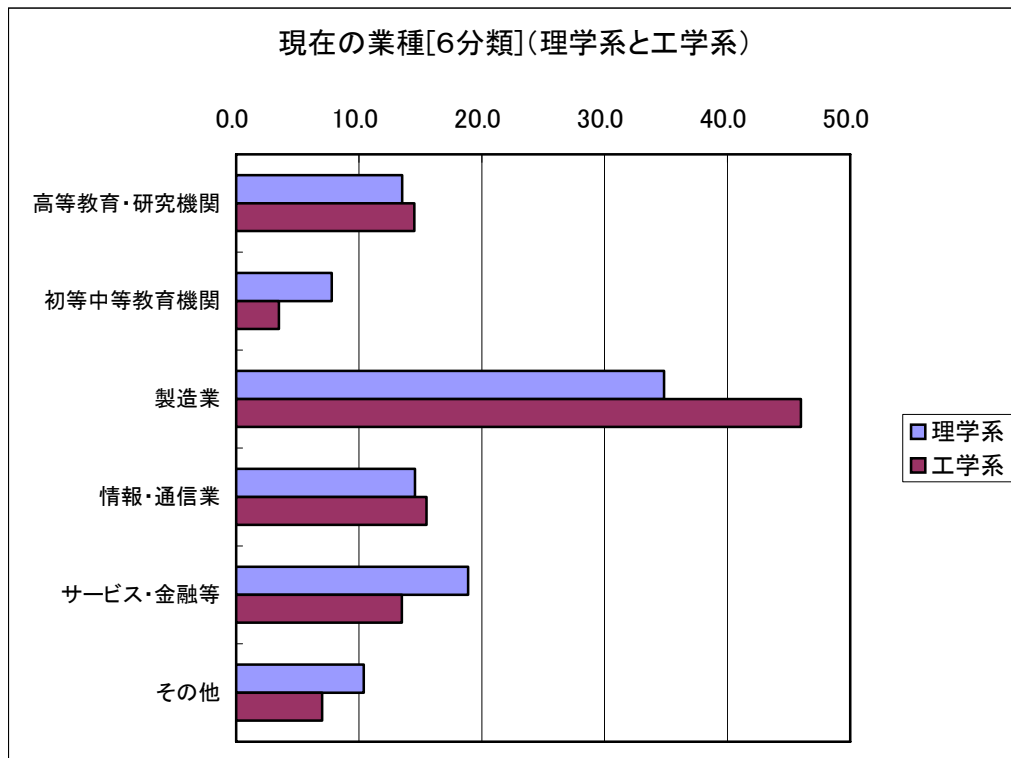


図4-7 現在の業種 (理学系と工学系)

4.3 現在の職種

回答者の現在の職種の分布を図4-8に示す。研究開発 29.0%、「技術(ハード, ソフト)」20.6%、それに「技術営業」3.5%、「技術管理・企画」4.1%を合わせて50%を越える出身者が、「産業界」で科学・技術に直接関係する職業についている。

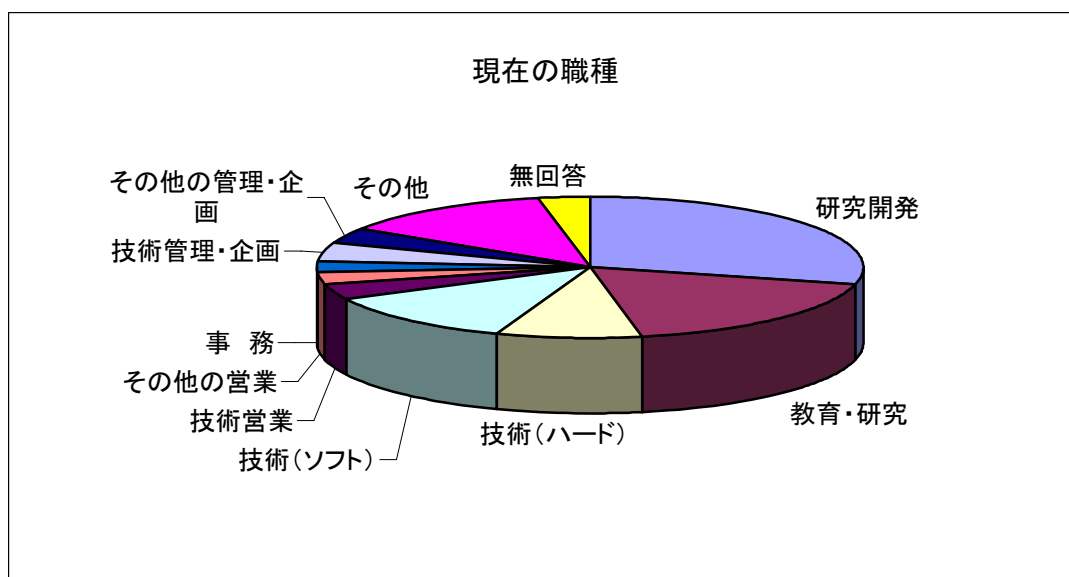


図4-8 現在の職種